

東日本大震災のその日、人票が偶然目に留まり、(2011年3月11日)、「飲料のものづくりとは長岡工業高等専門学校 何だろうか」と興味を持ち、(新潟県長岡市)の機械 ち、工場見学に応募した。工学科4年生だった西山 午後2時46分、工場の佳祐さん(26)はサント ある群馬県渋川市を震度リープロダクツ榛名工場 5強の揺れが襲い、見学にいた。学校にあった求 どころではなくなった。

高等専門学校(高専)出身者はものづくりやサービスなど広い分野で働き、日本の産業を支える重要な戦力となっている。「高専に任せろ 活躍する先輩たち」は企業や社会で学びを生かすOB・OGを紹介する。

## 高専に任せろ

活躍する先輩たち ①

だがこの震災がきっかけで、自宅に帰れず市役所で入社する決意を固めた。一晩を過ごしているうちに、被災地へと時折、工場の事務長が届けられる「飲料水の大量に見えてきた」と切さ。「水と生きる」と12年春に入社し、高専という企業理念にもひかれ、入社4年目、転機が訪れる。ものづくりの改善、革新のテーマを自ら設定し、半年間かけ成果を報告するチャレンジ課題制度で高い評価を得たのだ。缶コーヒー「ボス」

西山 佳祐さん (長岡高専卒)

### 「腕に覚え」現場で生かす



粉粒体が比重や組成などにより不均一になる偏析という現象で、「大きな異なるコーヒー豆で起るのでは」と仮説を立てた。小型の機械を手作業で製作し実験。段ボールで作った仕切り板でコーヒー豆が均等に吸い込まれる流れをいろいろ変えてみた。同僚の意見も聞いて試すことに覚悟を決めた。腕に覚えのある高専生がもって入ってきてほしい」と笑顔で語ってくれた。(編集委員 田中陽)

### 「困り事」解決の即戦力に

ホンダエンジニアリング (呉高専卒)

杠 勇輝さん



生産設備をインドの工場に納入した杠さん(中央) 市場は主戦場。成長著しいインドなど新興国の競合よりもコスト競争力を高めるため、日本で設計し、タイで部品を調達して組み立てることになった。16年はタイに数カ月単位で出張し、調整に当たった。ホンダは新卒採用で毎年高専から25人前後を採

6月、インドにあるホンダの工場にバイクのエンジニアリング加工用の設備が納入された。日本で設計し、タイで組み立てた新しい設備は従来のものに比べ小型で加工時間を半減、投資額は4割減らした。「クルマやバイクが好

めが良い製品を開発する研究所と、低コストで効率よく組み立てる製作所の間で、生産技術で『困り事』を解決するのが仕事」という。材料力学や製図など高専時代に学んだことが現在の仕事に生きているという。直近で担当したのはタイとベトナム、インドの工場に入れるバイクのエンジニアリング加工用の設備。バイクメーカー世界最大手のホンダにとってアジア

つており、会社全体では1200人弱の高専出身者がいる。人事部の斎藤毅部長は「ものづくりや技術の世界で生きると決めて高専に進学して欲しい、強い意志を持ってほしい」と評価する。「実習などを通じて実技の面でも即戦力となっている。メーカーにとって貴重な存在だ」と、今後も安定的に採用を続ける方針だ。(若杉朋子)